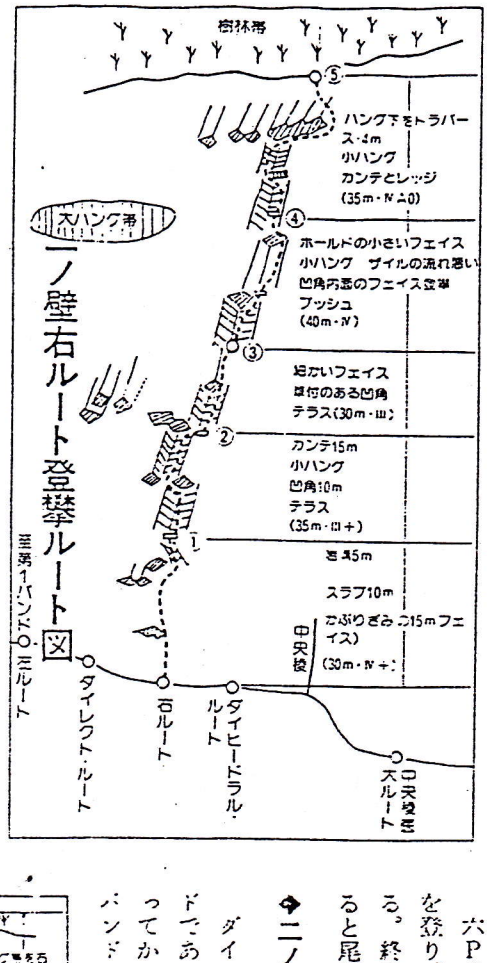
トも拓かれている。

滑台状になった地点から取りつき、オーバーハング下を右上して行く。右側のオーバーハングした岩上に移り二、三m直上すると、頭上に小リッジ状の岩が現れる。ルートはここと草付のコンタクトラインを直上する。

二P目、フェイスとブッシュを左上。

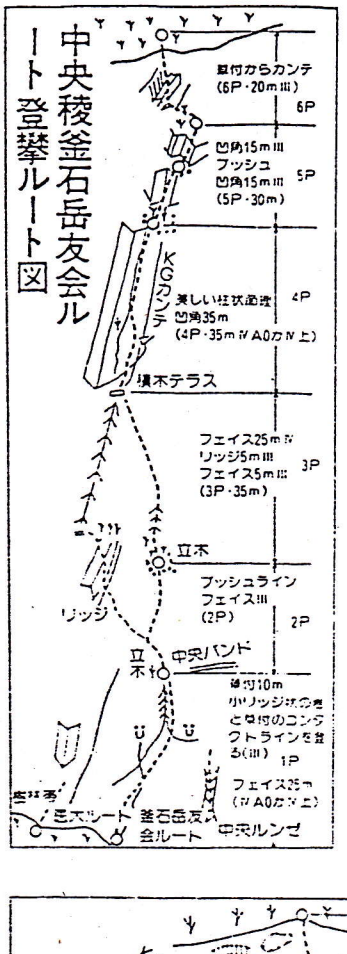


三P目、フェイスを登る。積木テラス下は多少ぶら気味である。ほぼ三P目で中央稜のリッジを忠実に登るバリエーション・ルートもある。後者のリッジ登攀の方が面白い。

積木テラスは石狩ダム湖面を真下に見る景観の素晴らしい場所である。積木テラスから上が核心部のKGカンテで、以前はA1で登っていたが、現在はフリーで登られている。壁中央にある小木から上はホールドも小さく、指の第一関節がかからないものもある。しかしランニングビレイもしっかりとれるので、ぜひフリーで登りたい。

五P目、草付からジエードルを登り、草付の立木でビレイ。

六P目、草付を左上し小さなカンテを登り、樹林帯に入って登攀終了となる。終了点から急な樹林帯を約三〇m登ると尾根に出る。（記・村上博行）

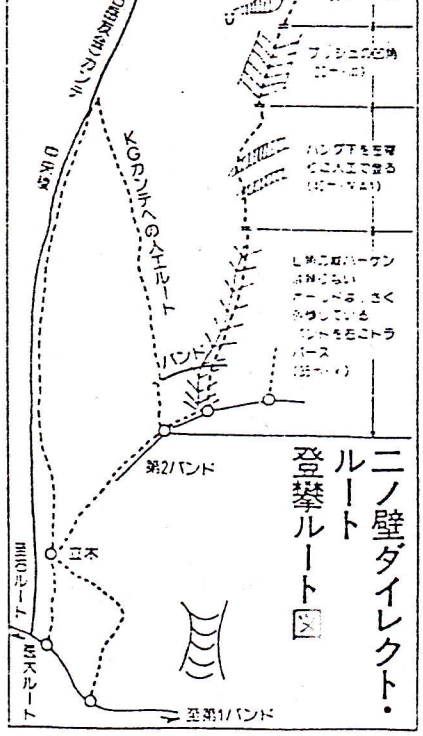


◆二ノ壁ダイレクトルート

ダイレクトルートの取付は第二バンドである。中央稜ルートを一ピッチ登ってから右にトラバースするとよい。バンドの左寄りが取付で、L字角のフェイス登り五mで夜露の乗るバンドに立つ。ここからボルトの連打されたルートは別ルートなので、バンドを右にトラバースしてL字角のフリーにかかる。このL字角は細かい上、体が右に振られハーケンも甘いので怖い。

二P目、ハング下を左寄りに人工で登る。ここのボルトは古く、むしろハングを抜けて細かいホールドのフリークライムの方が安心感がある。

三P目、柱状節理の凹角にブッシュがくい込んでいる。

四P目、ハング下を右トラバースするか、右側に切れ落ちたフェイスは高度感がある。このルートは初登以来あまり登られていないらしく、ハーケンやボルトも古く、危険だ。

（記・及川　恒）